

## FD 活動の報告

糊 山 洋 介

日本語日本文化教育部門では、平成14年にFD班を設け、以後、現在に至るまで、日本語の授業を担当する教員全員でFD活動に取り組んできた。さらに、平成16年には、留学生センターの委員会としてFD委員会を設置し、教員個々の教授能力の向上、授業の改善を目指している。

平成18年度は、6月にFD委員会を開催し、昨年度までの留学生センターのFD活動を改めて見直し、より効果的なFD活動を推進するために新たに以下のような提案を行うこととなり、専任教員・非常勤講師の合同全体会議において提案し、承認された。

その基本方針は、「従来にもまして、FD活動を効果的に行うために、課題・テーマを明確にし、継続的かつ計画的にFD活動を行う」というものである。具体的には、以下の「FD活動計画書の作成について」（フォーマットなどは省略）に従って、18年度中に、教員各自が「FD活動計画書」（A4サイズ、2頁以内）を作成するということである。

### FD 活動計画書の作成について

#### (1) 基本方針・概要

1. FD活動をより効果的に行うために、課題・テーマを明確にし、継続的かつ計画的にFD活動を行う。
2. 18年度は、FD活動の綿密な計画を立案し、19年度から21年度の3年間にわたって、実際のFD活動を行う。
3. 原則として、(グループではなく)教員各自が「FD活動計画書」を作成する。

#### (2) FD 計画書の作成

以下の要領で、教員各自が「FD計画書」を作成する。

1. 「活動の目標・狙い」を記す
  - ・3年間を通しての「全体的な目標・狙い」を記す。
  - ・「各年度の目標・狙い」を記す。

2. 「実施内容」を記す
  - ・各年度ごとに、目標・狙いを達成するために何をどのように行うかについて記す。
3. 「実施内容の評価方法」を記す
  - ・各年度ごとに、「活動の目標・狙い」がどの程度達成されたかを評価する方法を記す。

#### (3) 19年度～21年度のFD活動について

1. 各年度ごとに、計画に従いFD活動を行い、FD活動の報告書を作成する。
2. 計画に従いFD活動を行うことが原則であるが、やむをえない場合は、19年度あるいは20年度終了の段階で、計画の見直し、部分的な修正を行う。

以上の「FD活動計画書の作成について」に従い、ほぼ全員の教員が「FD活動計画書」を提出した。また、提出者全員の「FD活動計画書」を1つにまとめ、全教員に配布した。各教員の「FD活動計画書」のタイトルは以下のとおりである。

1. 初中級文法の効果的な教育を目指して
2. 中上級レベルと上級レベルの聴解授業の工夫と教材の開発
3. 初級学習者に対するひらがな教育の改善
4. 日本文化論教育の改善に向けて
5. 聴解能力の向上に役立つ指導法を探る
6. 話しことば教育の中での発音教育の再構築にむけて
7. 初級学習者の漢字の自立学習を促す方法を探る
8. 課題遂行能力ベースにもとづいた教室活動と評価活動の検討
9. 自立学習を促す漢字指導の試み
10. “日本文化”教育の充実を考える
11. 聴解力を伸ばす授業—特に中下位レベルに満足感を与える—
12. 読解教育改善にむけて

13. 初級学習者のひらがな教育の改善
14. FD 計画
15. 初中級読解教材の改善
16. 「どんな場面でも応用のきく」会話教育を目指して
17. 50音表を用いた動詞の活用形の導入と定着
18. 意欲的な会話練習のために
19. 中級後半レベルの聴解の授業における事前準備と

学習効果

20. 聴解教育の改善に向けての試み
21. 50音表を用いた動詞の活用形の導入と定着
22. 会話授業とフィードバック技術の改善に向けて
23. 学習活動と評価を結合した教育を目指す
24. 言語学教育の改善に向けて
25. 初級日本語コースの漢字教育